

# 平成 29 年度 関東高校新人バスケットボール大会 栃木（宇都宮）報告書 長尾繁徳

期 日：平成 30 年 2 月 9 日（金） 審判会議 10 日（土） 11（日） 競技

場 所：10 日 女子 白鷗大学体育館 男子 宇都宮清原体育館

11 日 宇都宮清原体育館

審判会議 講義内容

久保 仁氏

『大会に臨む心構え』

○今大会に召集された全レフリーが大会成功のために最善を尽くす との題でレクチャーして頂いた。

## 1 大会の様相

参加チームの状況 新人戦であるがゆえ、細かいコントロールが必要な場合も想定する。

## 2 パートナーとの協力

### ①相手レフェリー

- ・綿密なプレゲーム・カンファレンス 起こりうる現象を確認し準備する
- ・2人（3人）でゲームを進めていく意識 何かがあった時2人（3人）で協力し解決する

### ②TO、コートキーパー 高校生

- ・ゲーム前にコミュニケーションをとる。  
連続で同じTOチームが担当する状況であったので、緊張を解し、集中力を保つことなど、インターバルの度に会話を持った。
- ・トラブルへの対処  
ピリオド、ゲームの終わりのクロックの把握  
最終責任者は全てレフリーである

## 3 県を代表して派遣されているレフリーとしての意識

### ①見られる立場としての行動（公平、公正で信頼される態度）

コート内外でのプレゼンテーション チーム関係者との接触 割り当ての守秘 など

### ②コンディション（心身）

レフリーするために来ている自覚 そのための行動に全力を尽くす

### ③自分自身のレベルアップの機会

自分のレフリー技術の向上の機会 所属連盟への還元

## 4 地元レフリーが良い状態でコートに立てるように

地元の審判員は色々な仕事の中で審判をする。余分な仕事や気遣いをさせることなく、自分でやれることは自分で行き、地元の方々の負担をできるだけ軽くするよう心掛ける。

清水 幹治氏

【プレイコーリング・ガイドライン】における主に『悪い手・腕・肘の整理』について映像を用いレクチャーして頂いた。Bリーグのゲーム映像で様々なケースの悪い手、腕、肘について参加審判員が意見をし、ファウルとして取り上げるべきか、そうでないか、また取り上げるとしたらどのタイミングで笛を吹くか、を議論した。やはり、基準が審判員により千差万別で、この基準を合わせながら2人（3人）が可能な限り同じ基準で判定していくことがゲームコントロールには大切であると痛感した。そのためには、このような講習会やプレゲームカンファレンスで映像等を使用した、時間をかけた確認（議論）が必要であると感じた。

審判割り当て

2月10日(土)

女子1回戦 Dコート 12:30

富士学苑高等学校(山梨) 83-56 県立高崎商業高等学校(群馬)

レフリー 長尾 アンパイア 横山 充男 氏(栃木) B級

地元栃木県の審判員でなおかつ関東大会は初めての方がパートナーであったので、レクチャー通り念入りにプレゲーム・カンファレンスを行った。時間の管理、基準の作り方、エリアの分担、協力の仕方、などを確認した。また、何よりパートナーに、選ばれた審判員として自信を持って自分らしく表現して欲しい、と話し合いゲームに入りました。

ゲームは富士学苑が優勢に進むが、富士学苑がディフェンスも激しく当たる場面が多く、手の使い方について基準を示すことが大切であると感じた。自分がリードしながら基準を示したつもりであったが、手の使い方に関してはRSBQも考えるとやはり二人の基準をあわせるのは非常に難しいと感じた。前半は僅差の試合となったため、両チームとも基準に乗って試合を進めることができた。後半に入り富士学苑がリードを少しずつ広げ始めると、メンバーチェンジも多くなり、悪い手の使い方により高崎商業のプレイヤーがバランスを崩す場面がでてきた。タイムアウト間にパートナーとコミュニケーションを取り、もう一度、基準をしっかりと示しながらゲームを落ちつかせる必要を確認。ゲーム後半に出場するプレイヤーには、悪い手の使い方について基準を示しても、止めてくれないケースもあったが根気強く吹き上げ、勝利した富士学苑も、最後まで追い上げをみせた高崎商業も試合に集中し終えることが出来たと感じている。パートナーの横山氏も臆することなく堂々と自分らしい判定をしていたと思う。

ゲーム後のミーティングでは、やはり富士学苑のディフェンスにおける手の使い方について確認があった。審判会議レクチャーと同じように、どこで笛を入れるべきか、吹くべきか吹かなくてよいか、意見を求められ自分としての見解を述べた。自分としてはゲームを納めるのに必要なものを取り上げたつもりであったが、二人の基準の差についてはもっと合わせる必要があった、との反省を頂いた。いかに二人がゲームの中でも基準を合わせていけるかが課題であると感じた。私のバイオレーションの判定(トラベリング、3秒)に関しては丁寧にゲームにマッチしていたとご意見を頂いた。また、ライン際のアウトオブバウンズなのかファウルが起きいているのかの判定に関して、富士学苑の悪い手をファウルと判定したが、ファウルをされたチームが損することのない判定を心掛けたための判定で、良い判定であったと言って頂けた。パートナーの横山氏は思い切った判定も多く、やはり県を代表するB級審判員であると感じた。その中で、トレイルの位置取りの高さや、アドバンテージ・ディスクアドバンテージなどについて課題を感じた。初めての関東大会であり、これからも向上し活躍していく審判員であると強く感じた。

最後に、今回の派遣は2014年11月関東総合(茨城)以来の派遣となりましたが、このような派遣の機会を与えてくださった東京都バスケットボール協会に深く感謝致します。また、お世話になりました栃木県バスケットボール協会の審判員の方々にも深く感謝申し上げます。今回の大会が問題なく大成功に終わったことが何よりも嬉しく感じています。今回の貴重な経験を元に、選手のため、大会のため、東京都のため、上級審判員としてあと2年となりましたが、最後までより良いA級審判員として追及しようと思意も新たにすることができました。また、今回の経験を所属連盟や東京都の審判員育成にも役立てなければならぬ事も自覚し、意欲的に審判活動に取り組んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

東京都高体連バスケットボール女子専門部所属 長尾 繁徳